

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	RPPA 解析を用いた分子標的治療薬耐性肺がんにおける耐性獲得メカニズムの同定
	研究目的	<p>研究代表者は、EGFR 活性阻害薬治療肺がん症例において誘導された耐性獲得機構を RPPA 解析技術で網羅的に同定する。EGFR 活性化変異は多くの肺がん症例に見られる遺伝子変異であり EGFR 活性阻害薬を用いた治療が主流となっているが、高い治療効果を示す一方で薬剤耐性を獲得し再発するケースが極めて多い。そのため、個々の治療薬によって誘導される耐性獲得機構を網羅的に同定することは、耐性の誘導されにくい治療法や新たな治療薬の開発に寄与すると期待される。EGFR 活性阻害薬に対する耐性メカニズムは個々の症例において非常に多様であり、活性化されている耐性メカニズムを簡便に検出する解析法が求められる。RPPA 解析は多数のタンパク質マーカーを網羅的かつ定量的に解析可能なタンパク質解析技術であり、多数の組織サンプルにおいて活性化されている特定のシグナル伝達経路を同定することに適している。そこで本研究では、既存の EGFR 活性阻害薬に対し耐性を獲得した肺がん症例組織サンプルを用い、RPPA 解析による薬剤耐性機構同定を行う。EGFR やその下流に存在する ERK、および耐性機構への関与が報告されている Met、PTEN、PI3K、Akt 等についてタンパク質量、活性について解析を行う。以上より各耐性獲得症例において活性化されている耐性獲得機構を網羅的に同定することは、再発症例への対処や新たな薬剤開発を行う上で重要な知見を提供することができる。</p> <p>使用するデータ：平成 17 年～現在までに、呼吸器外科を受診した肺がん患者様のデータ。</p>
	研究期間	西暦 2017 年 12 月 28 日～西暦 2021 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者 臨床研究所 がん生物学部 越川直彦	
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器外科 中山治彦、伊藤宏之、伊坂哲哉 病理診断科 横瀬智之
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし